

「発達障害者の就労支援について」 ～ 学齢期からのトップダウンの視点による移行計画 ～

講師 自閉症生活デザインコーディネーター
自閉症教育・支援コンサルタント

水野 敦之 氏



平成 27 年 2 月 11 日(水)、和歌山市北コミュニティーセンターにて講演会を開催しました。講師は、広島県の社会福祉法人 つつじ より、自閉症教育・支援コンサルタントの水野敦之先生をお迎えしました。水野先生は法人内の児童発達支援センター「ぐるんぱ」で総括ディレクターを務めつつ、広島県内、県外にまで自閉症支援コンサルテーションおよびコーディネートを行っています。まさに幼児期から成人期まで全てのライフステージに関しておられます。発達障害者の就労支援について、先生の豊富な経験に基づいた説得力のあるお話を聞くことができました。

始めに、発達障害を持つ人の自立について、「支援を受けながら自立的で豊かな生活を送ること」とゴールをはっきり示されました。ゴールに向けて支援計画を立てるのですが、支援者と親と本人は考え方やとらえ方が違って当たり前だから、決して支援者の考えを押し付けてはいけなと言われ、ハッとさせられました。支援計画は障害特性の理解を基本とし、アセスメントに基づいて個別化されるべきで、目指すところは前出した自立であり、ツールを使うことが目的になってはいけなともおっしゃいました。親や本人、支援者間の協働を重視し、「親が語れない支援計画は支援計画ではない」ということばが印象的でした。

次に、学齢期からボトムアップの視点だけでなく、トップダウンの視点を持って療育・教育内容を設定していく重要性を説明されました。アセスメントに基づき、スモールステップで、般化を意識しながら将来使える力をつけていく。ボトムアップ中心の課題設定からトップダウン中心へと移行するのは 14 歳～16 歳の頃とも教えていただきました。



発達障害の特性による苦手さに対する指導方法については、構造化のアイデアをたくさん紹介してくださいました。「まずは～、次は～」の理解が基本。スケジュールの理解・終わりの理解・注目する習慣・コミュニケーション・余暇・刺激に対する自己調整や自己防衛・高機能の発達障害の方には、自己決定や自己認知も大切な課題です。身に付けたいことはたくさんあります。

就労支援についても、やはりアセスメントと支援計画の重要性を具体的な事例を用いて説明くださいました。就労や自立を困難にしていることをアセスメントすると、本人の特性と環境要因の相互作用であることがわかります。発達障害の特性があるというだけで問題が起こるわけではないこと。成人の場合は過去の経験も強く影響しているケースがあること。上記のことをアセスメントし、何を課題にするのかを押し付けにならないように設定していくことが、就労支援のスタートであるとおっしゃいました。そして、発達障害の特性に配慮した環境で丁寧に指導し、実習を行い、振り返ってまた指導し実習する。何度も指導と実習を繰り返す中で、本人の力でできることと、支援を受けてできることを整理していくことが、支援を受ける側だけでなく支援する側にも大切だなと感じることができました。



最後に、質疑応答でも大切なことを教えていただきました。「～だから～するものだ」という正論や哲学的理論で発達障害の方の言動を責めてはいけないということです。こだわっていることを何とかしようとするよりどうでもよいことで練習する(たとえば終わる練習)、問題が起きてから対処法を練習するのではなく落ち着いているときに練習する(たとえばイヤーマフの使用)等、「本丸からではなく外堀から埋める」作戦だそうです。しかし、決して問題を後回しにしているのではなく、障害特性の理解に基づくアセスメントにより、先を見越して計画的に、成功するように指導するという基本姿勢が貫かれていると感じました。

水野先生には、お忙しい中、和歌山までお越しいただき本当に感謝しております。休憩時間にも先生の周りには質問をしたり写真を撮ったりする参加者が後を絶ちませんでした。先生のエネルギッシュな語り口調と具体的な講演内容で、参加者の皆様も元気になっていただけたと思っています。あっという間の3時間30分でした。

末筆になりましたが、水野先生のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

皆様からの声

講演会終了後、アンケートを回収させていただきました。
以下 いただきましたご意見を一部抜粋して掲載させていただきます。

* アンケート回収枚数	118 枚	うち	参考になった	→ 115
			どちらでもない	→ 3
			参考にならなかった	→ 0

みなさまからいただいた感想から

- ・ 就労を考えて子どもの頃から取り組んでいったらよいか、何が将来生活する時にどう役に立つかが具体的な話でわかりやすかった
- ・ First～ Then～は定型発達にも有効なので、子育ての面でもストレスマネジメントにいかせる事
- ・ 具体的な例も多く、失敗談も聞けて心が楽になりました
- ・ 幼児期から幅を広げていくことを学習させてあげることが、将来的に役に立てることがわかり、目の前の状況への適応を目指しがちだったので反省させてもらい、前向きに取り組みたいと思えた
- ・ 発達障害の特性を知り、生活の環境が重なってとる行動を頭に置くということを学べた
- ・ 発達障害の就労の最先端の話が聞けてよかった
- ・ 幼少期からの早期発見・早期療育の大切さを改めて痛感しました
- ・ 就労支援についての話ばかりでなく、発達障害の特性についての話から支援の仕方の方まで、総合的に学ぶことができた
- ・ 就労に向かうための援助の方法(自立支援とアセスメント)を知ることができた
- ・ 失敗の中からアセスメントしていくことの大切さが理解できた
- ・ 質問への回答が、実際にできそうなことで良かったです
- ・ 本人の意見、親の思いを受け止めて、できることはやってみようというスタンスで取り組むことが大切だとあらためて感じました。繰り返しや小さな変化をつけることが大切なのはわかりませんが、関わりの中で時間をとることが難しい時もあります
- ・ 学校での教育実践で行っていかなければいけない大事なことを確認できました
- ・ 学校現場でできていないと思うことが、たくさんありました
- ・ 準備から片付けまで、一人でできることを般化出来るように、繰り返しをしっかりとしていきたいと思います
- ・ 教育現場では他者評価の押し付けがされている面があると気づきました
- ・ 学校生活のルールをどの子どもも低学年の間にしっかりと身につけることで、高学年で少しずつ般化していくことができるのだと思いました

- ・「そうか。あなたはそう考えるんだね」と思いを受け止めた(本人の意見を引き出して受け止める)うえで、次のステップを提案する視点(一緒に考える)、心に残りました
- ・自分で気づくということを大切にしていきたいです
- ・母親が語れない個別支援計画は意味がないというご指摘、大切にします
- ・トップダウンの視点での余暇や待つ力なども、とてもわかりやすかったです
- ・般化の必要性をわかりやすく話して頂けてよかった
- ・アセスメントシートの配布提供頂けてよかった
- ・起こってから考えるのではなく、イヤーマフの提案時期など大変参考になりました
- ・失敗例も教えてくれた点、どこが悪かったかということを教えてくれた点が、とても参考になりました
- ・発達の連続性を保障していく支援の視点を持ち続けたいです
- ・凸凹がありすぎる方に自分たちの基準をおしつけてしまいがちでした。急ぎすぎるのも気づきました

要望・改善してほしい点について

< 講演内容 >

- ・就職先となる企業とのやり取りはどうしていったのか。企業に理解してもらう方法も聞きたかった
- ・これからも障がい者関連の講演会・研修会・勉強会の企画運営をお願いしたい
- ・学校との連携や医療機関との関わりについても話があれば良かった
- ・スライドで字がつぶれてしまっているところがあり、もう少し見やすくしてほしいです
- ・資料がみえない部分があるので、文字は見えるぐらいにして頂ければうれしいです
- ・時間に対して内容が盛りだくさんであった
- ・午前中の開催とか、もう少し短時間でのお話をきかせていただく機会があってもよいと思いました
- ・外来語が多いので、理解しにくい面もありました
- ・資料のないところもあったので改善してほしい
- ・支援計画について具体的に聞きたかった
- ・事業所から企業に移る間の事例や工夫したことをもっと知りたいと思いました
- ・就労後、長い目で支援できる体制づくりについて聞きたかった
- ・家庭や本人が意識して改善していける方法があれば、教えて頂きたかったです

< 運営・進行 >

- ・会場が寒かった
- ・撮影・録画は禁止でしたが、後援側で録画頂いて後日再度視聴できればとてもありがたかったです。何度でも聞きたい内容でした
- ・会場もよかったです

ポラリスへの要望や関心のあることについて

- ・ 高校等卒業後⇒就職へのサポート施設の充実
- ・ 今回のような講演会を是非継続してください
- ・ 自傷行為、他害行為のある障がい者支援について
- ・ ポラリスを紹介する際に、障がい者支援センターではなく、もっと敷居を低く本人や家族に紹介ができればありがたいです。
- ・ 大人の当事者や家族の話
- ・ どのような相談内容が増えてきているか知りたいです
- ・ いつも興味深い講演会を開催頂きありがとうございます
- ・ 16時までの終了が望ましい
- ・ お話を聞きたくなる講師選考に感謝しています
- ・ 発達障害児者に対する情報を多様に発信してほしい
- ・ ひきこもり者らへの支援の窓口について、もっと広く一般市民へアピールしてください
- ・ 青年期の社会に出るにあたってのSSTなどに取り組んでほしい
- ・ 和歌山の就労状況を知りたい
- ・ 就労支援や訓練をする場所、みんなとコミュニケーションが取れる場所など具体的に知りたい
- ・ これからも講演会を定期的に行ってほしい
- ・ 親が発達障害児に関わる際の具体的な事例などの教育講演、トレーニング教室などあればうれしいです
(ソーシャルストーリーズの具体的作成など)
- ・ 感情のコントロールができる方法、思春期までの児童支援について

次回以降の講演会への要望

- ・ 家庭環境を変える方が良いケースについての家庭環境の換え方
- ・ 障がい者と医療についてのテーマで企画してほしい
- ・ 発達障害を持つ子の思春期について
- ・ 愛着障害に関する講演会
- ・ 不登校に関する講演会
- ・ TEACCH、応用行動分析など
- ・ 発達障害を支える一般の方(企業の雇用主、地域のボランティア)を活用して、うまくいっている事例があれば教えて欲しいと思います。支援者の肩書を持つ人だけの力には限界があるので
- ・ 水野先生のお話を聞かせて頂きたいです
- ・ 基礎的環境整備と理にかなった支援

- ・ 障がい者差別解消法とそれぞれの現場の関わり
- ・ 小中学校の段階でどのクラスにもいる子どもたちに対して、どんな支援をすれば「二次障害」を防ぐことができるか。高校での支援の在り方について
- ・ 最新のトピックスや事例をあげて頂いて、より具体的な支援・見方・考え方をお話頂きたいです
- ・ 田中康雄医師の講演会
- ・ 腹巻智子先生の講演会
- ・ アセスメントの方法(ワークショップを通して)、振り返りの仕方
- ・ 支援団体に助けを求めるまでに至っていない方が、全国やこの和歌山県にいらっしゃると思う。気軽に相談しやすい場所や、誰にでも行きやすい講演会を開催して欲しい。世間体などを気にする世代も多いので、偏見になるかも。このような団体が広まって欲しい。敷居を低くして欲しい。誰でも相談できる機関に。。
- ・ 反抗挑戦性障害について
- ・ 軽度の発達障害やボーダーの子が、学校などでいじめや対人トラブルに会う場合の対処の仕方を知りたい
- ・ 具体的な支援の仕方の研修
- ・ 発達障害児・者の家族の方の関わり方に関する研修
- ・ 基礎的な「発達障害とは」の理解の研修
- ・ 当事者の方や、当事者を抱える家族からのお話を聞きたい
- ・ 「心のケア—スタッフのための対人援助技術」
- ・ 和歌山の企業の取り組みの話や実情をお願いします
- ・ 生きづらさに向き合っていける認知行動療法について知りたい
- ・ 幼児期から高齢期までの公の福祉制度を勉強したい
- ・ 門 眞一郎先生によるPECSの学び講演会
- ・ 特別支援教育について
- ・ 地域・学校に障害を正しく理解してもらうためのネットワークづくり

この他にもいただきました沢山の貴重なご意見・ご感想を、
これからの活動に活かしていきたいと思っております。

どうもありがとうございました。